# 乙貞

第１２４号　通巻２２巻　第３号
２００２年９月１日　発行

守山市立埋蔵文化財センター
Tel・Fax　０７７－５８５－４３９７
〒　５２４－０２１２
守山市服部町２２５０番地

センターの周りでは、お盆の頃にツクツクボウシが鳴いていました。それから半月、朝夕めっきり涼しく、コオロギの鳴き声も一段と大きくなって、すっかり秋の気配が感じられるようになりました。

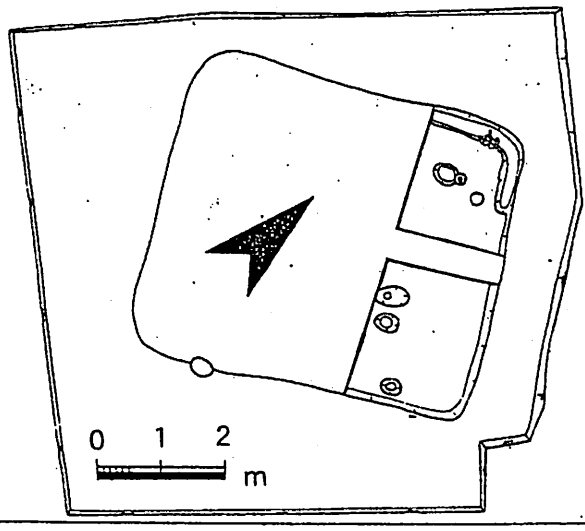
さて、七月は台風やらその大雨のため、なかなか調査は大変でしたが、梅雨明け後は一転酷暑ながら順調よく作業は進みました。今号も調査を終えた遺跡と、現在行っています発掘調査について報告します。

## ☆　調査終了

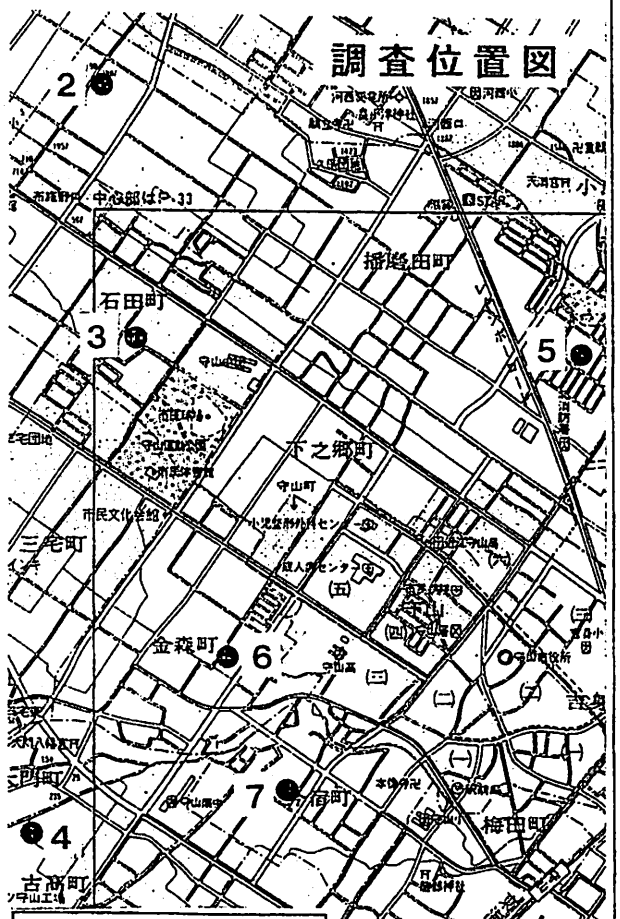
### 1．伊勢遺跡の調査　79次

７月上旬に阿村町において共同住宅建築に先立って試掘調査を実施したところ、生活跡が見つかりました。出土した弥生土器や場所からみて伊勢遺跡にかかわる遺構と推測されたことから、29日より遺構の性格を把握するための確認調査を実施しました。その結果、一辺約５ｍの方形プランの竪穴住居とわかりました。住居の東辺隅を一部掘削したところ、床面までは約10cmを測り、四つの柱穴を検出しました。土器は床面からも出土し、弥生時代後期後半の時期とわかりました。

調査区は伊勢遺跡の中心部から150mほど離れた場所で、ポツンと建つ竪穴住居は、伊勢遺跡の東側を画する大溝の外側で、見張りをしていたのでしょうか。　（伴野）




竪穴住居平面図

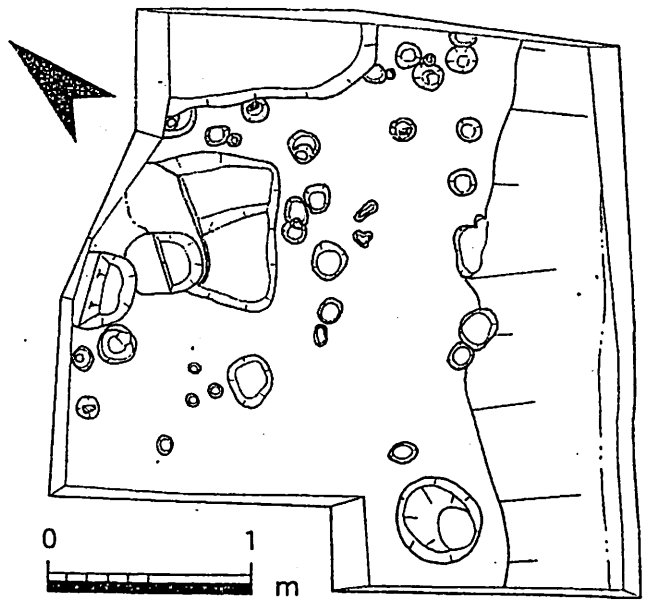



目　次

調査終了
1.伊勢遺跡　1p
2.布施野城遺跡　2p
3.石田三宅遺跡　2p
4.下長遺跡　3p
調査中
5.播磨田東遺跡　3p
6.金森東遺跡　6p
7.古高・経田遺跡　6p

## 2．布施野城遺跡の調査

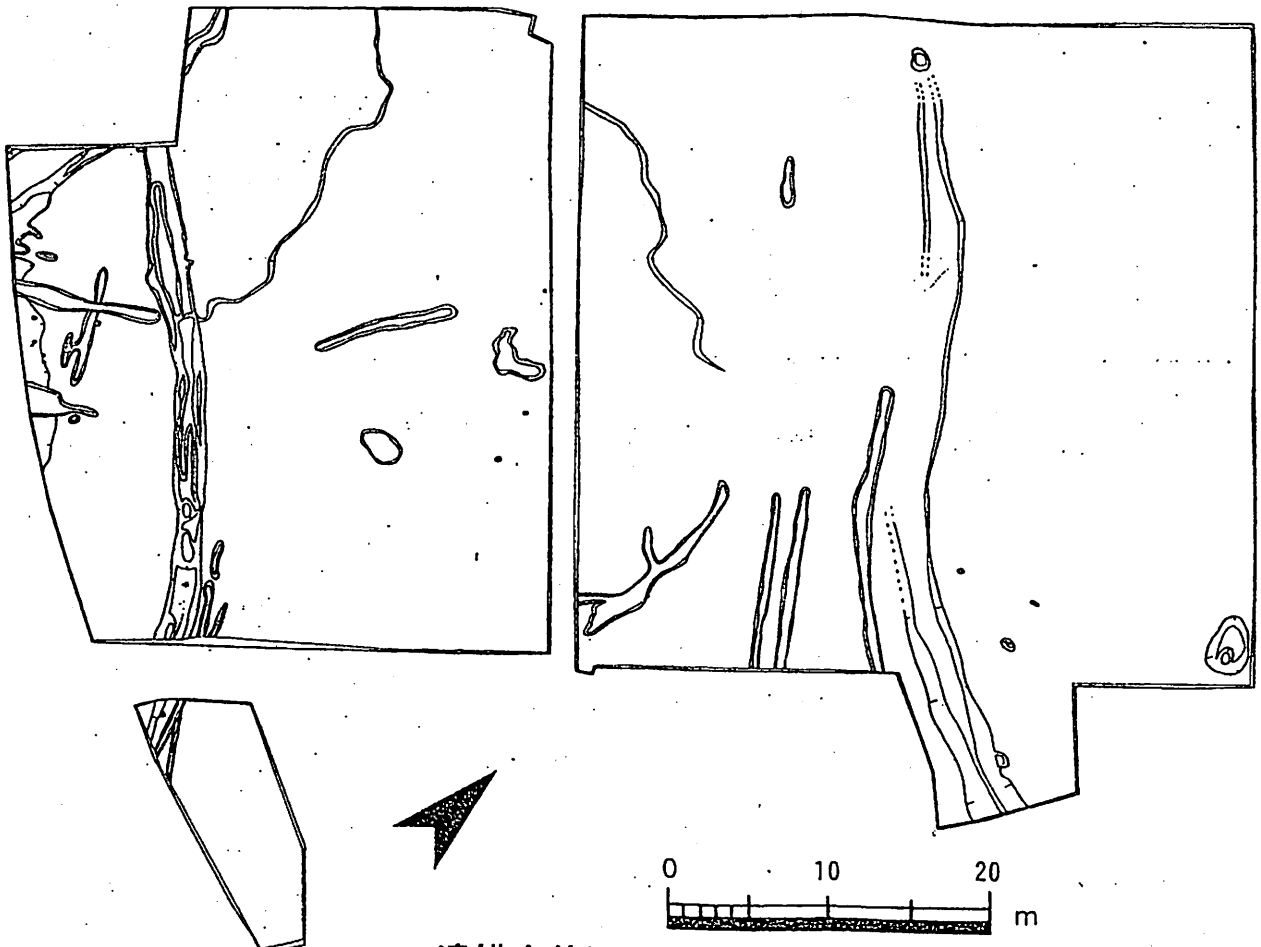
播磨田町布施野で個人住宅の改築工事に先立って試掘を行いました。その結果、地表から約50cmのところから旧河道、土坑、井戸とたくさんのピットを検出し、出土した土器から鎌倉時代と考えられます。また、近世の陶磁器も包含層から見つかっています。調査面積が狭いため、集落の広がりや性格の位置づけは難しいですが、周辺には建物が密集していた可能性があります。　　（川畑）




遺構平面図

## 3．石田三宅遺跡の調査

石田町地先において、水道配水池および管理棟の建設工事に先立ち、約3.000㎡を対象に調査をしました。調査の結果、古墳時代前期の溝、平安時代の溝などが見つかり、土師器。須恵器。緑釉陶器、灰釉陶器などが出土しました。また、わずかながら縄文土器も出土しています。そのひとつは、深鉢の大振りな破片で、巻貝を使った文様のつけ方から、縄文時代後期後葉（元住吉山Ⅱ式）の年代のものとみられます。すこやか通りの向い側の



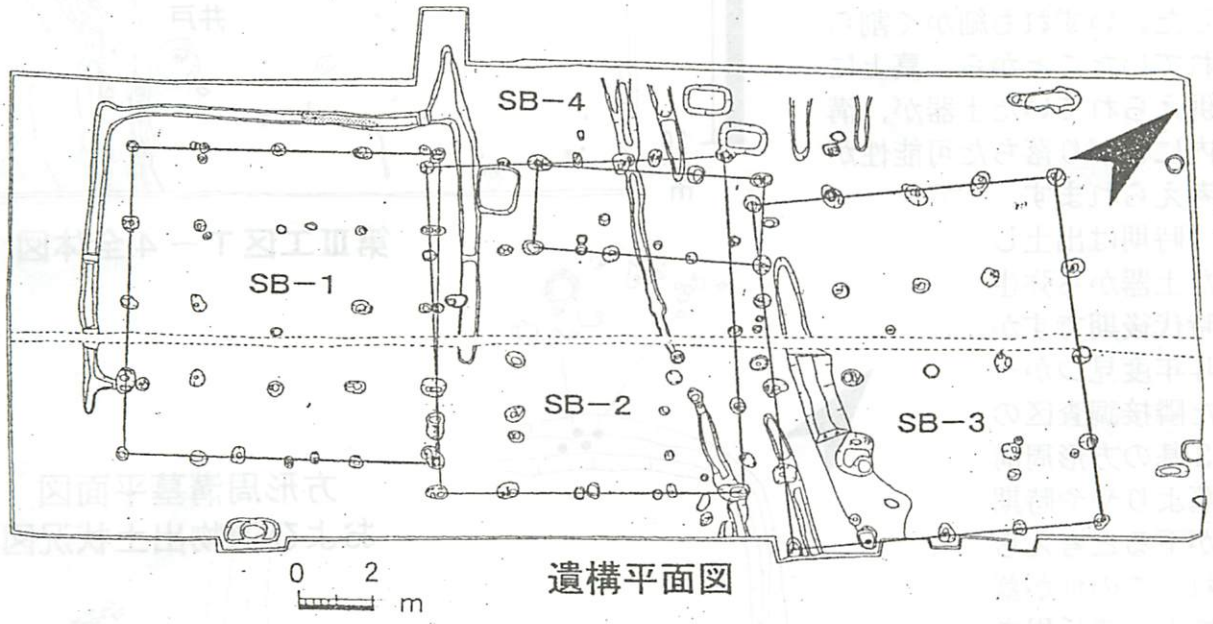

遺構全体図

地点（明見の郷団地）の調査でも、ほぼ同時期の縄文土器が少量ながら出土していることから、周辺に縄文時代後期の集落が存在していた可能性が考えられます。　（小島）

## 4．下長遺跡（第19次）の調査

前号で一部お伝えしましたが、調査が終了しましたのでまとめとして報告します。掘立柱建物は４棟（SB－1～SB－4）が考えられます。このなかでSB－1は、４間×４間（6.75m四方）の規模で、内側にも柱が配置されています。コの字状の区画溝が伴い、西側の溝の一部では炭化した部分が長さ２mにわたって見られ、土師器の皿の高台部分が１点、逆さになって見つかりました。この建物の柱穴のひとつから長さ約46cm、直径約10cmを残す柱根が残っていて樹種を鑑定したところ、スギであることがわかりました。SB－2とSB－3も４間×４間の大きさで規模もSB－1とほとんど変わりませんが、建物方位が少しづつ変わっていることや内側の柱の配置に変化があることなどから、建て替えられた可能性が考えられます。この２棟の柱穴の底には、10cm程度の木片が敷かれ、柱が沈まないようにした礎板と考えられます。ただ、SB－3の礎板はモミが使われていました。SB－4でも柱穴の底に扁平の石が見つかり、礎板と同じ役目の石と考えられます。

今回の調査地は、境川に沿った場所であることから、近接する大門遺跡や横江遺跡の集落と何らかの関わりが考えられます。　（畑本）



遺構平面図

☆ 調査中

## 5．播磨田東遺跡の調査

８月初旬より播磨田町のハイムタウンの西側の団地内において、宅地造成工事に先立つ調査を開始しました。発掘の対象は、開発地内道路の約700㎡です。これまでのところ、古墳時代の溝跡や奈良時代から平安時代にかけての柱穴を数箇所で検出しています。また、遺構面を覆う包含層からは、平瓦の破片が数点出土していて、寺院などに関連する施設が近辺にあった可能性があります。９月中旬をめどに調査を進めており、今後、調査で新たな発見がありましたら紙面にて紹介していこうと思います。　（川畑）

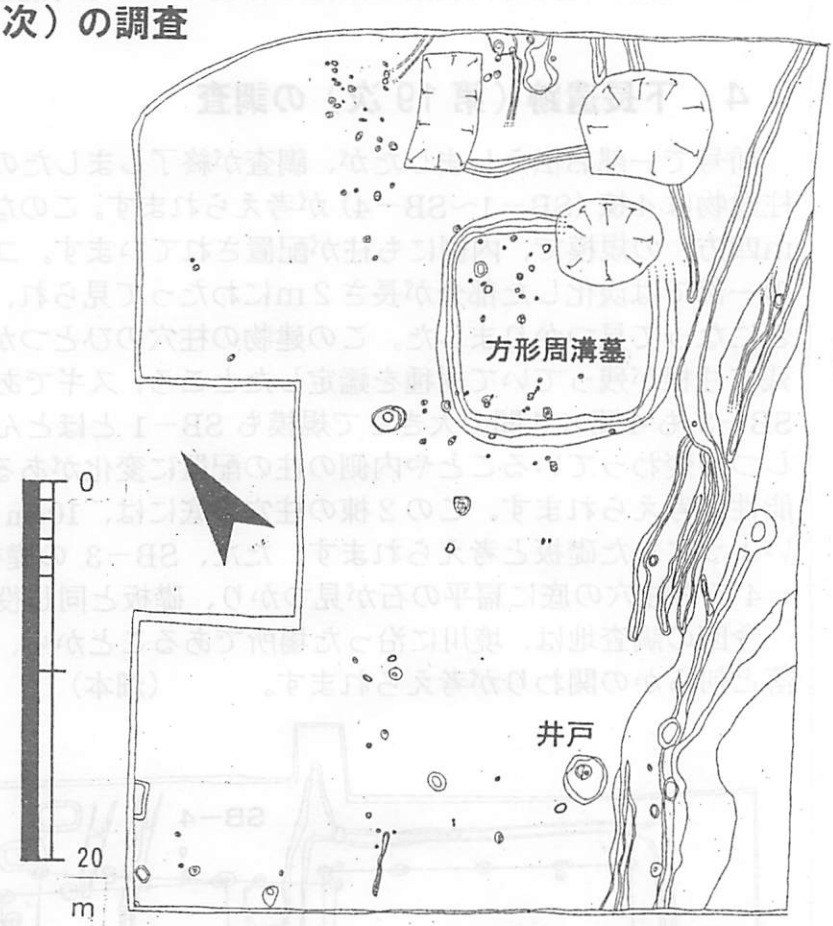
## 6．金森東遺跡（第31次）の調査

第Ⅲ工区は７月に調査を終了しました。前号の乙貞でも一部報告いたしましたが、弥生時代から鎌倉時代にかけての溝やピット、土坑、旧河道と、装飾付須恵器の小壺が出土した古墳時代の井戸、さらに、弥生時代の方形周溝墓が見つかりました。

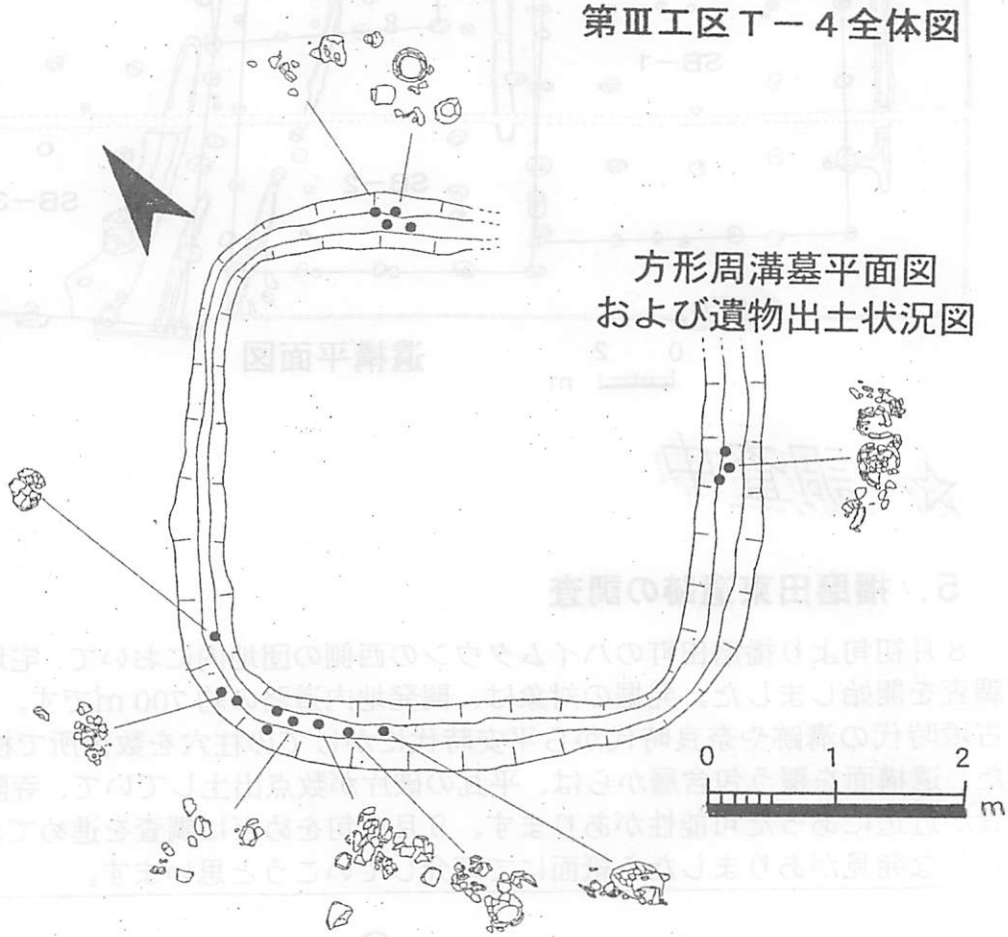
方形周溝墓は、一部攪乱を受けていますが、一辺が約10mを測り、周溝からはたくさんの土器が比較的まとまった状態で出土しました。いずれも細かく割られていたことから、墓上に供えられていた土器が、溝内に転がり落ちた可能性が考えられます。

時期は出土した土器から弥生時代後期ですが、昨年度見つかった隣接調査区の２基の方形周溝墓よりやや時期が下ると考えられ、この地が墓域として活用されていたことがうかがえます。

８月からは守山高校グランド南側の第Ⅱ工区の調査を再開しています。次回の乙貞で調査成果をお知らせしたいと思います。　（大岡）




第Ⅲ工区Ｔ－４全体図




方形周溝墓平面図
および遺物出土状況図

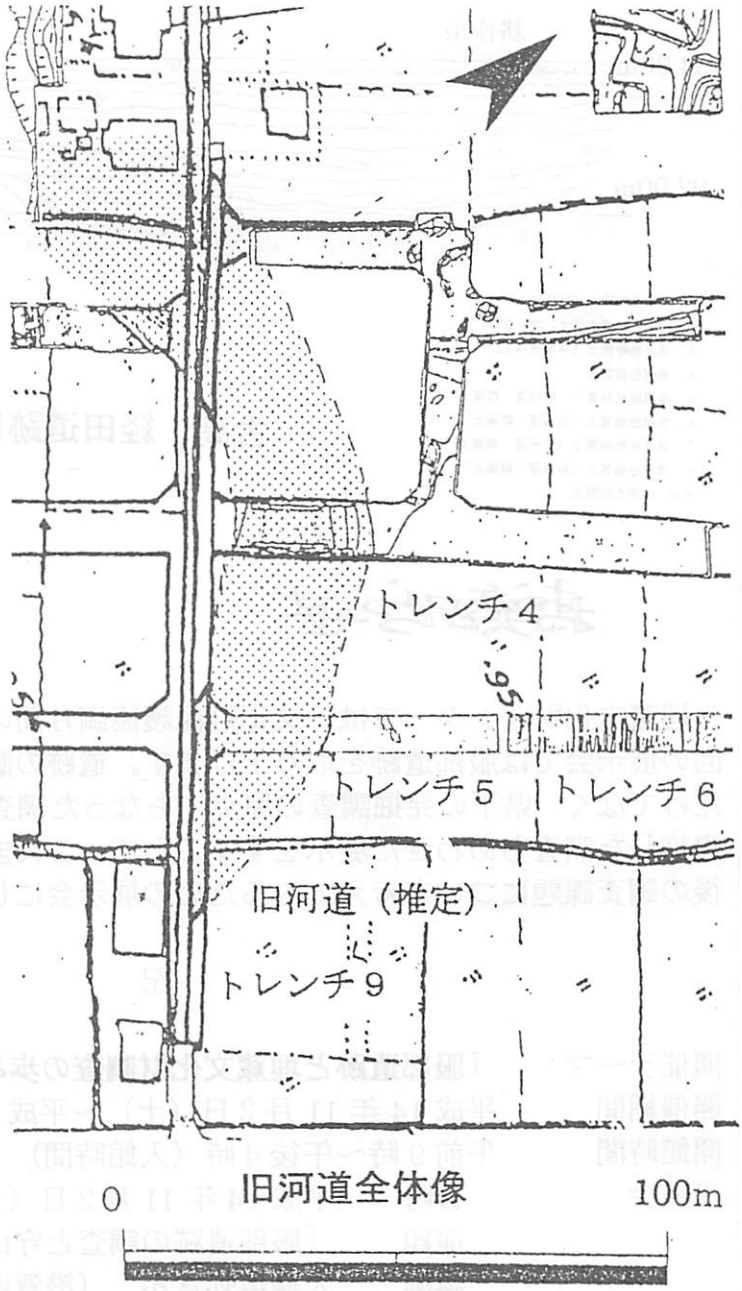
## 7．古高・経田遺跡の調査

8月3日に現地説明会を開催しましたところ、猛暑の中、70名近くの方々に参加していただき、ありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。

さて、前号でお伝えいたしましたケヤキ（6層出土）は、その後取り上げて切断をしました。表皮は既に腐っていましたが、芯は青みがかかっているものの、まだ硬い状態でした。

調査では、旧河道についていくつか進展がありましたので報告します。旧河道の堆積は、大きく分けて4層の腐植土層（5層～8層）で構成されていました。各層から出土した植物遺体は下表のとおりで、ケヤキについては各層で確認されました。特に5、6層から植物の木や葉が、7、8層ではトチやクルミなどの木の実が多く見られました。旧河道は、現在調査を行っているトレンチ9で肩口を検出しており、これまでの調査を合わせると、調査区の中で大きく曲がっていることがわかりました。

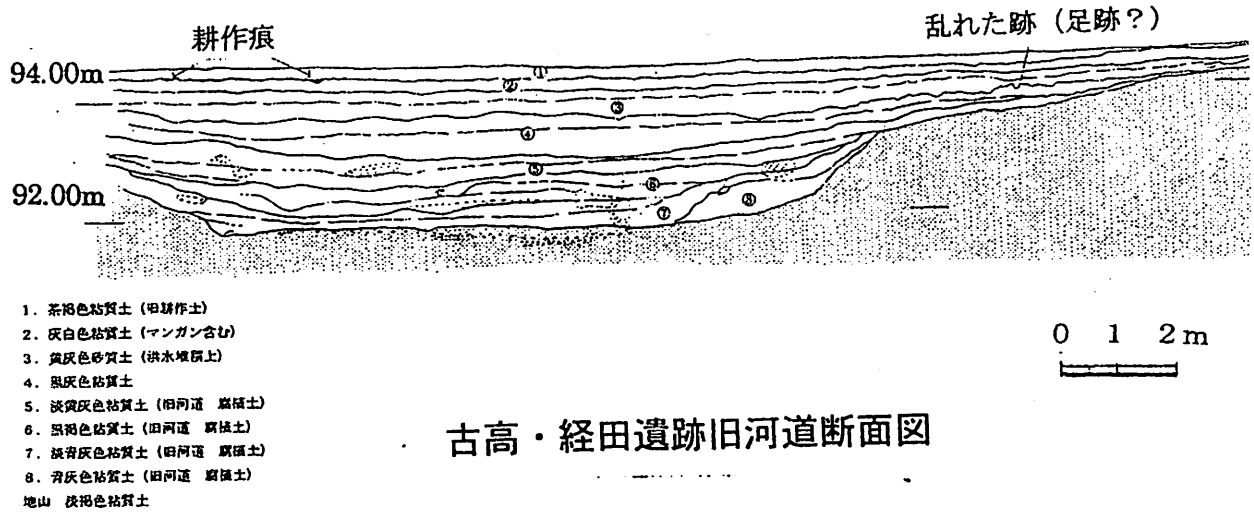
第二工区は9月に終了する予定です。次回ではまとめて報告したいと思います。　（森山）



旧河道全体像

旧河道から出土した植物遺体

| | | |
|---|---|---|
| 旧河道の上 | 4層目 | ケヤキ |
| 旧河道 | 5層目 | スギ、ケヤキ |
| | 6層目 | スギ、ケヤキ、ムクノキ、カエデ属、カシ類<br>イヌガヤ、イヌビワ |
| | 7層目 | スギ、ケヤキ、ムクノキ、ハンノキ属、ヒサカキ |
| | 8層目 | ヤナギ属 |




古高・経田遺跡旧河道断面図

## 埋蔵文化財センターだより

埋蔵文化財センターでは、文化財保護協調月間の 11 月に秋季特別展を開催します。今回の展示会では服部遺跡を取り上げます。遺跡の調査は既に 30 年を経ていますが、守山だけでなく、県下の発掘調査の原点にもなった調査でもあります。そのため、服部以後に実施した調査もあわせた展示をすることで、これまでの市内の成果を振り返り、また、今後の調査課題について考えてみるための展示会にしたいと思います。

記

開催テーマ　**「服部遺跡と埋蔵文化財調査の歩み」**
開催期間　平成 14 年 11 月 2 日（土）～平成 14 年 11 月 17 日（日）
開館時間　午前 9 時～午後 4 時（入館時間）
講演会　日時　平成 14 年 11 月 2 日（土）
　演題　「服部遺跡の調査と守山の遺跡」
　講師　大橋信弥さん　（滋賀県立安土城考古博物館 学芸課長）
　午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
関連行事　**「古代の玉を探そう！つくろう！」**
　日時　平成 14 年 11 月 16 日（土）
　時間　午前 9 時 30 分～午前 11 時

詳しいことは、センターまでお問い合わせください。
なお、展示会準備等のため、10 月 28 日（月）～11 月 1 日（金）と、11 月 18 日（月）～11 月 20 日（水）までの間、休館致します。

【後記】
暑さには結構弱いほうなので、今年の夏はとてもつらい状況でした。しかし、これからは最も爽やかな季節になっていくので、エンジンも全開にして調査に取り組んでいきたいと思っています。　（Ha）